

2025年度版 美唄市移住・定住案内

BIBAI

Migration and Settlement
Information

Book

美唄で始まる、
ちょうどいい暮らし



暮らす

BOOK



私たちは、美しく
美唄とともに
つくっています。



Bibai
Be Beautiful
美しくあれ。

〈発行〉美唄市

〒072-8660 北海道美唄市西3条南1丁目1番1号
TEL.0126-62-3131 FAX.0126-62-1088

北海道美唄市 ホームページ

<https://www.city.bibai.hokkaido.jp>



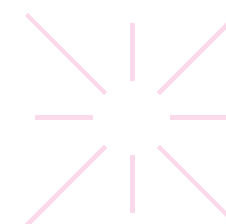
北海道美唄市 美唄シティプロモーション 特設サイト

<https://bibai-citypr.jp>



移住ポータルサイト

<https://www.city.bibai.hokkaido.jp/site/ijuu/>



札幌から1時間。

自然と都市のいいところ取り

美唄市は、都市へのアクセスと豊かな自然環境、
どちらも諦めたくないあなたにぴったりの
場所かもしれません。

石狩平野の中心に位置し、アイヌ語で
ピパオイ(カラス貝の多いところ)と呼ばれた
この地は、肥沃な大地が広がる穀倉地帯。
札幌までJR特急でわずか35分、車で約1時
間と、都市の利便性を十分に活かしながら、
一歩足を踏み出せば広大な田園風景が広が
ります。週末は札幌でショッピングやグルメを
楽しみ、平日は美唄でのんびりと過ごす。そ
んな理想の暮らしが、ここなら叶います。

都市間JR路線が充実しており、札幌駅、新さっぽろ駅、岩
見沢などの主要都市へもアクセス可能です。また、市内には
生活路線バスが運行しており、地域内の移動も便利です。

JR(特急)

札幌駅	旭川駅
約35分	約50分
新千歳空港	
約75分	

車(道央自動車道)

札幌	旭川
約60分	約70分
新千歳空港	
約80分	



市立美唄病院が 新しくなりました

地域医療の拠点となる市立美唄病院が新
しくなり、より質の高い医療サービスを提供
できる体制が整いました。

※病院数3カ所、診療所数10カ所、介護施設数36カ所
(最新の地域内医療機関情報の集計値)



人口 **18,233人**
(令和7年3月住民基本台帳)

気候

月平均最高気温	月平均最低気温
春 3~5月 11.9℃、夏 6~8月 26.9℃	春 3~5月 8.1℃、夏 6~8月 17.3℃
秋 9~11月 16.5℃、冬 12~2月 -1.3℃	秋 9~11月 16.6℃、冬 12~2月 -11.0℃

※季節毎の観測平均値(2024年)

春・秋は平均気温が
20℃前後なので
快適に過ごせます!

札幌と旭川の中間に位置し、国道12
号道央自動車道、JR函館本線が縦貫
するという交通の要衝でありながら、日
本遺産「炭鉄港」の史跡が残る東側エリ
ア、石狩川が流れ田園風景が広がる西側
エリア、どちらにも魅力的な表情があり
ます。特に春と秋には、宮島沼に数万羽
のマガンが飛来する光景は圧巻です。
また、世界的彫刻家・安田侃氏の彫
刻作品が展示されている「アルテピアッ
ツ美唄」、2000本の桜が咲き誇る
「東明公園」など、文化や自然を楽しめ
るスポットも豊富。美唄焼き鳥、ハスカッ
プ、グリーンアスパラガスなど、地元グル
メも忘れてはいけません。利便性と自
然、文化と食、そのバランスがとれた暮
らしが、美唄市にはあります。



美唄ってどんなマチ？

コンパクトだけど、ちゃんと便利

生活に必要な施設がコンパクトにまとまった美唄市。毎日の買い物から、もしもの時の医療、子どもの教育、行政手続きまで、スムーズにアクセスできる便利さが魅力です。

徒歩圏内にすべてが揃う「コンパクトシティ」

新しい土地での暮らしは、誰もが少し不安になるもの。けれど美唄市には、安心して暮らせる便利さがそろっています。車を持たない生活も十分に可能です。都会の喧騒から離れても、不便さは感じない。そんな「ちょうどいい」暮らしが、美唄市にはあります。

冬の暮らし

美唄市は国の特別豪雪地帯に指定されており、冬はたくさんの雪が降ります。特に1月は積雪が多くなりますが、北海道ならではのサラサラとした軽い雪なので、雪かきも比較的楽にできます。また、市全体で除雪がしっかりと行われるため、生活道路も確保されます。雪が降ったあとの景色は美しく、銀世界を存分に楽しめます。



「安心」も選ぶ理由の一つ。美唄は災害に強いマチ。

内陸に位置し、海から約35km離れた平坦な地帯であるという地理的な要因から、災害が少ないという特徴があります。津波などの心配がなく、台風の被害も比較的少ないため、穏やかな環境で、長く、安全に暮らしたい方にとって、美唄市は理想的なマチです。



日々の買い物や用事も楽々



毎日の生活に欠かせないお店や施設が身近に揃っているのが特徴です。食材や日用品、生活雑貨、郵便局や銀行といった公共施設まで、暮らしを支えるものが市内に集中しています。「あれはあっちのお店、これはこっちのお店…」とあちこち車で回る必要がないため、仕事帰りにサッと立ち寄ったり、週末にまとめて買い出しを済ませたりと、時間を有効に使うことができます。

もしもの時も安心の医療体制

市内中心部には、中核病院である「市立美唄病院」をはじめ、内科や歯科などの診療所が点在しています。



美唄に住む移住者の声
Aさん

以前は都会で暮らしていて、通勤ラッシュや人混みに疲れていました。美唄に引っ越してきてから、時間に追われることがなくなり、心にゆとりができました。自然も豊かで、子供と一緒に四季を感じられるのが嬉しいです



美唄に住む移住者の声
Bさん

美唄に住んでから、家族で過ごす時間が増えました。週末は宮島沼でバードウォッチングを楽しんだり、新鮮な野菜を買いに行ったり。車で少し行けば大型商業施設や札幌にも行けるので、不便さを感じたことはありませんね

これからの美唄

育ててもらった美唄のまち。

持続可能な地域として活気ある状態で

次世代へバトンを渡したい

行政や政治に携わった経験もないまま、39歳のとき、思い切って美唄市長選に立候補した桜井恒（ひさし）市長。当時、道内の市長の中では最年少だったことや、民間出身ということも話題になりました。令和5年（2023年）7月に就任し、ちょうど2年目を終えたばかり。今回は立候補するまでのことや、3年目に入った今、市長に就任してからの取り組みなどを振り返りつつ、これからの構想や美唄への想いを伺いました。



美唄市 市長
桜井 恒

かしきていない」という想いを抱いていたのです。そんな中、市長選の実施を知り、政治経験も地盤もないにもかかわらず、立候補を決意します。周囲の多くからは反対されましたが、「まちに育ててもらった」という強い想いと、「未来の世代に活気ある美唄をバトンタッチしたい」という使命感が原動力となりました。「唯、「妻が『やってみたら？』と背中を押してくれた」とも大きな支えとなりました。妻もまた、美唄のポテンシャルを活かしきれていないと感じていたからです。当初反対していた父も、本気で取り組む姿勢を見て応援してくれるようになりました。

「政治に興味は今もない」と笑う桜井市長。自身の市政運営は「ビジネス的な感覚」だと語ります。常に「どうすれば課題を解決できるか」「それが美唄市民のためになり、未来につながるか」を考え、市長の職務に取り組んでいます。

市民の暮らしを豊かにすることに重点を置き、シティブロモーションとDXを推進

桜井市長は、対話から始めるまちづくりをスローガンに掲げ、市民の暮らしを最優先に据えた3つの基本施策を打ち出しました。これは、「市民の暮らしを守る」「事業の優先順位の見直し」「美唄の未来への投資」の3つから成り、特に「教育」「子育て」「公共交通」「防災」「医療」の5分野に力を入れています。これらの施策に共通して取り組んでいるのが、シティブロモーションとDX（デジタルトランスフォーメーション）

という2つの事業です。

市長は、シティブロモーションの方向性を転換しました。これまでは外部への発信が中心でしたが、市民の美唄に対する誇りを育むことを重視しています。「なにもないまち」という市民の声を覆し、面白い活動をする人やこだわりの店など、市民自身が美唄の魅力に気づくきっかけを作るのが狙いです。この取り組みは、外部の関係人口と美唄市民との良好な関係構築にも繋がります。地方創生において、外部の人と地元住民との摩擦はよくある課題ですが、美唄では外部の協力会社の力も借りながら、シティブロモーションを「地元の人と外の人との橋渡し」として機能させたいと考えています。

また、市長は「不可欠と語るのがDXです。人口減少が進む美唄では、デジタル化の普及が急務と捉えられています。高齢者の中にはデジタルに抵抗を感じる人もいますが、市長は「あくまで暮らしを支えるツール」であることを強調し、理解を求めています。人手不足が深刻化する中、デジタル技術は市民生活を支えるサービスの裏側を担う重要な役割を果たします。市長は、市民がより暮らしやすくなるためのシステムとして、DXの重要性を粘り強く説明していく考えです。

市の未来を拓く2つの重要な取り組み、シティブロモーションとDX。市長の目指す「対話から始めるまちづくり」は、着実に歩を踏み出しています。



故郷がさびれていくのを見たくない。活気ある状態で次の世代に繋ぎたい

美唄市内の米農家の長男として生まれた桜井市長は、農業を営む傍ら市議会議員も務めていた父の背中を見て育ちました。幼い頃は、家の中でまちの課題について話し合うことも多かったそうですが、自身が政治家になることは考えていなかったといいます。



大学農学部へ進学したのは、美唄の米に適した品種改良に貢献したいという想いからでした。しかし、卒業後は医療分野の会社就職し、野の会社で生活を始めて、東京での生活を始めて、東京で結婚し、子育てが始まると、のびのびと子育てできる環境を求めてUターンを決意。江別市にある病院に転職し、経営幹部として働くことになりました。札幌に住みながらも頻繁に美唄へ帰省する中で、まちが寂れていく様子を目の当たりにし、もどかしさを感じていました。「このまちには可能性があるのに、生

桜井市長の
想いや市政にける情熱について、
さらに詳しく知りたい方は、
ぜひ「くらしごと」のウェブサイト
インタビューの全文を
ご覧ください。



桜井市長の
くらしごと記事は
こちらから



美しい山並みに癒され、気持ちに余裕も。

移住したことで自分もリセット

ビルに囲まれた都会から、美しい山並みが見える美唄へ。3か月のちよつとぐらし中に自然の魅力に惹かれ、アパートの長期契約を大家さんに交渉し、本格移住を決意。美唄での暮らしをスタートさせました。そんな佐々木さんに移住のきっかけや現在の生活について伺いました。

心にゆとりをくれるまち・美唄へ
——リモートワークが導いた移住のかたち

「変わりたいときは環境を変えること」。そう語るのは、東京出身で現在は美唄に暮らす佐々木さん。コロナ禍でリモートワークが浸透したことをきっかけに、都会にこだわらない暮らし方、働き方を模索し始めました。北海道大学への進学で札幌に暮らした経験もあり、北海道は佐々木さんにとって馴染みのある場所。就職で東京に戻り、システムエンジニアとして忙しい日々を送っていました

が、コロナを機に「度リセツトしたい」と考えるようになります。そんなとき、自然の中で感性を大切にしながら暮らす友人の影響を受け、自分もそうした暮らしに惹かれていったといいます。「リモートで仕事ができるなら、自然の近くでもいい。もう一度北海道で暮らしみたい」と思い、移住を検討し始めました。



環境もまちの人もいい。
ちよつとぐらしの最中に美唄への移住を決意

佐々木さんが最初に申し込んだのは、美唄市の「ちよつとぐらし制度」。札幌在住時代に名前は知っていたものの訪れたことはなく、印象は「焼き鳥のまち」程度。「合わないければやめればいい」と、軽い気持ちで2024年1月からの滞在を決めました。冬の厳しさも承知のうえで、あえて雪の多い時期を選んだ佐々木さん。しかし、実際に住んでみると、美唄の自然や人のあたたかさに惹かれていきます。3か月の予定でしたが、すぐに滞在先のアパートの大家さんに「このまま長く借りられますか?」と聞いてしまったそうです。「札幌までのアクセスも良く、まちの機能がコンパクトにまとまっていて暮らしやすい。人との距離も近くて、関係性が築きやすいと感じました」ちよつとぐらし期間中には、自ら読書会イベントを企画。市のシテイブプロモーション事業メンバーが集客や当

日の運営を手伝い、市長まで参加する盛況ぶり。「このまちなら、何かを始めやすい」と感じたといいます。

山を眺めていると心が落ち着く。
人の距離もいい意味で近くて温かみがある

移住して1年半、現在は札幌の会社に勤務しながら、美唄の自宅やカフェ、コミュニティスペースなどで仕事を続けています。忙しい日々ながら、「東京の頃とは違って、気持ちに余裕がある」と佐々木さん。「窓の外に山が見えるだけで心が整うんです。札幌も自然はありますが、美唄の方が山がぐつと近くて、より安心感がある気がします」そんな「近さ」は人間関係にも表れます。ちよつとぐらし期間中に喫茶店を訪れた際、偶然居合わせたおじいさんから「美唄に来てくれてありがとう」と声をかけられ、お米10キロを贈られたという驚きのエピソードも。今では、地域の読書会にも参加。きっかけは本を読んでいた佐々木さんに店主が声をかけてくれたこと。「60、70代の方たちが多く、私は最年少ですが、皆さんが本場に温かく接してくださるので楽しいです」地元のケーキ屋でアルバイトをするほか、移住者交流会やワークショップにも参加。無理のないペースで美唄とのつながりを深めています。

年内に読書会を開けたら…。

気持ちに余裕ができるとアクティブにもなれる

「月に10冊読むこともあるほど読書が好き」という佐々木さん。最近では村田沙耶香さんの作品がお気に入りとのこと。喫茶店で本を読む時間が忙しい日々の癒やしになっているそうです。「また自分で読書会を開きたい気持ちはあるのですが、ひとりで準備するのはちょっと大変



佐々木さんの
くらしと記事は
こちらから



一度離れてわかった、
北海道の魅力。
今度はここで、
キャリアを築きたい!

佐々木 愛子さん

Q & A

美唄での暮らしてどんな感じ?

Q₁ 美唄市に移住した理由は?

北海道の雄大な自然が大好きで、いつか住みたいと思っていたんです。美唄の方々は本当に温かくて、人柄に惹かれました。それに、ほどよく田舎で、暮らしやすいところが魅力でしたね。市が用意してくれている補助金制度も、移住への大きな後押しになりました。

Q₂ 移住前の美唄のイメージは?

正直、最初は焼き鳥と宮島沼のイメージくらいしかなくて(笑)。でも、それだけじゃなくて、お米も美味しいんだろうな、という期待はありましたね。

Q₃ 移住後の美唄の印象は?

想像以上に自然が豊かで驚きました!食べ物も本当に美味しくて、日々感動しています。都会の喧騒から離れて、心にゆとりができたのが一番嬉しい変化です。

Q₄ 生活に不便はない?

不便を感じることはほとんどないですね。お店や公共施設も近くにまとまっているので、普段の生活はとても快適ですよ。

Q₅ 買い物はどうしてる?

車がなくても、歩いてスーパーやドラッグストアに行けるのが便利です。

Q₆ 交通手段は?

車でも札幌まで行きやすいですし、駅も近いので特急に乗れば35分くらいで札幌に行けるんです。都会へのアクセスが良いのは本当に助かっています。

Q₈ 町内会ってどんな感じ?

町内会に入っていますが、負担は少ないので無理なく続けられています。

Q₁₀ 移住後の家探しはどうでしたか?

私たちは市の『空き家バンク』を活用しました。希望に合った物件を探せるだけでなく、物件見学やリフォームの相談にも乗ってもらえて、とても心強かったですね。空き家をリフォームして住むことで、以前住んでいた場所の家賃の4分の1くらいに抑えることができました。

Q₁₁ 冬の雪かきが心配です。

雪は降りますが、美唄市は除雪がしっかり行われるので安心ですよ。

Q₁₃ 移住後の仕事はどう探しましたか?

私はリモートワークで以前の仕事を続けています。都会にこだわらず働けるので、心にゆとりができました。札幌まで通勤している人も多くですよ。市には若者向けの助成金や、札幌への通勤費を助成する制度もあるので、不安なく仕事を探すことができました。

移住って、こうだった!

実際に移住した先輩たちの声を聞いてみました。良かったこと、意外だったこと、これから移住する人へのアドバイス…美唄のリアル、教えます!

Q₇ 近所の人との付き合いは?

皆さん親切で、温かく見守ってくれる感じがですね。程よい距離感なので、移住者でも付き合いやすいです。

Q₉ どんな人に美唄はおすすめ?

美唄は『自然が好き!美味しいものが好き!』という人には最高の場所です。都会と田舎の『ちょうどいい』バランスを求めている方、そして『あったかい人たちと暮らしたい!』という方には、ぜひ美唄に来てみてほしいですね。

Q₁₂ 子育て支援は充実していますか?

はい、とても手厚いです。18歳までの医療費が無償化されていたり、3歳未満の子どがいる家庭にはごみ袋が支給されたりします。安心して子育てできる環境が整っているのは嬉しいですね。

コンパクトで暮らしやすい美唄の街と

人の良さを、移住してみて強く実感

宅地でありながら田んぼが広がるのどかな環境に魅かれ、昨年末に滝川市から移住した南さん一家。散歩が楽しいと話す南さんは、同じ空知エリアでも美唄での暮らしは大きく変わったと実感しています。そんな南さんご夫婦に美唄での暮らしぶりを伺いました。

息子の学校のことを考え、移住を決意。1年近く探して見つけた素敵なマイホーム

南さんご夫婦が美唄に移住したきっかけは、小学2年生の息子陽希はるきくんの学校でした。知的障がいのある陽希くんが、美唄の特別支援学校へ通うため、将来の送迎のことも考えて美唄での住まい探しをスタート。なかなか条件に合う家が見つからず、1年間は滝川から通学しましたが、ようやく出会えたのが築25年の中古住宅でした。

「子どもが思いきり遊べるように」と、リビングは壁を極力取り除いた開放的なつくり。リフトーム、安全性や周辺環境にも配慮し、美唄市の住宅取得助成制度にも対応した住まいを実現しました。庭も広く、春からは家庭菜園にも挑戦。「雑草が大変」と笑いながらも、アスパラをつまみに楽しんでます。



南さんのくらしと記事はこちらから



便利なA1デマンドバスの運行や、必要なものが徒歩圏内にまとまっているのが魅力

洋さんの職場は砂川市にあり、美唄からは車で約30分。滝川に住んでいた頃、通勤時間は同じですが、美唄のほうが交通量が少なく、心にゆとりを持って運転できると感じているそうです。移動手段として便利なのが、A1デマンドバス「のる」と美唄。専用アプリで予約すると、予約者の乗車希望場所と目的地（降車場所、乗降希望時間帯）に対して、最適な車両とルートを設定してくれる乗り合いバスです。駅まで車が使えない日には、タクシーのように使えてとても便利」と洋さん。自宅のすぐ近くに乗降場所があるのも嬉しいポイントです。また、陽希くんは電車好

クライミングがきっかけで暮らしを満喫

「美唄に来てから、一番ハマっているのはクライミングなんです」と由紀恵さん。体育センターの本格的なクライミングウォールで、市内の子育て世代が集う教室に参加しています。インストラクターは地域おこし協力隊の方で、参加者も気さくな人ばかり。「最初はまったく登れませんでした。少しずつ登れるようになって楽しく、筋力もついてこの冬の雪かきは自信あります」と笑います。クライミング仲間とは教室後に美唄のお店の話をしたり、スーパーで偶然出会うて立ち話をすることも増えました。また、お気に入りのカフェ「ストウブ」が徒歩圏内にあったのも、移住を前向きに捉える要因に。以前から通っていたパン屋が近くにあることに喜びを感じているそうです。

福祉も、移住者交流も、近所付き合いも、そして景色も。すべて思った以上に良かった

移住してからは、美唄市の福祉制度の手厚さにも驚いたと話します。息子の放課後デイサービスが全額助成されたことや、市内に就労支援施設が多いことも安心材料になりました。交流会は美唄市移住・定住推進協議会が主催。特産のアスパラ収穫体験を通して「移住者や地元の方と交流し、移住者同士の横のつながりが



できて嬉しかった」と振り返ります。ご近所との関係も良好で、引っ越し直後に誘われた町内会の新年会では、陽希くんのこと自然に受け入れてもらえたそう。今では近所のお父さんたちと井戸端会議をする仲に。「美唄では人との関わりが自然に生まれる。移住して本当に良かった」と夫婦で口をそろえます。取材の帰り道、夕暮れに染まる田んぼを眺めながら「この夕焼け、本当にきれいなんですよ」と話す由紀恵さん。その表情には、美唄での暮らしへの満足がにじんでいました。

南さん 家族

夫／洋さん
妻／由紀恵さん
長男／陽希くん

滝川も好きだけど、美唄も気になる！
子育て世代に優いって聞いて、思い切って引っ越してきました！

子どもと一緒に、のびのびと生きる

美唄市は、金銭的な援助だけでなく、「親を支える仕組み」をしっかりと提示し、関わる大人全員で子どもを育てていくことができる“まち”を目指しています



出産サポート119

事前に妊婦さんの出産に関する情報を登録しておくことで、もし急な体調変化などで受診が必要になった場合でも、救急車で速やかに医療機関へ搬送することができます。



美唄市病児保育室「にこにこルーム えがお」

病気によりお子さまを通常の保育園や幼稚園などに預けることができず、かつ、保護者の仕事の都合などで家庭でお子さまの療養が困難なとき、市立美唄病院に併設する病児保育室で保護者に代わって保育士・看護師が一時的にお子さまの保育・看護を行います。



小学生・中学生への支援

美唄市では小・中学生を対象に多彩な支援を行っています。デジタル拠点「PITAAAN!」ではIoTやプログラミングを学び、放課後の居場所としても活用。AIDリルや1人1台のタブレットで学力向上を図っています。農業体験や商品開発を通してふるさとへの理解を深めるほか、ダンスや野球教室では元プロ選手らが指導。防災意識を高める「ジュニア消防クラブ」、自然や地域を学ぶ「マガレンジャー」「まちづくり部」など、子どもたちの主体性や社会性を育てる取り組みも充実。さらに学校給食費の無償化や冷房設備の整備など、学習環境・家庭支援の面でも力を入れています。

コーディネーショントレーニング



脳や体幹に刺激を与えることで、運動の学習能力を高めます。美唄市では保育園等や小学校で導入しており、「できる・できない」ではなく「待つ心」で気づきを促す関わりを大切に、バランスよく能力を育みます。

高校生への支援

市内高校の生徒や市内在住の高校生に対し、返還不要の奨学金（月額8,000円、年間最大96,000円）を給付。また、進学模擬試験や公務員試験の検定費用補助も実施。さらに、部活動の全国・全道大会出場にかかる交通費や宿泊費、実習やインターンシップの際の交通・宿泊費も支援しています。加えて、国家資格取得に必要な教材費や通信環境の整備など、幅広い教育振興のための経費補助も行い、安心して学べる環境を整えて高校生の学びを多角的に支えています。



学校給食無償化

令和4年度から、子育て世帯の負担を軽減するため、小学生・中学生の給食費を無償にしています。また、地元で生産される農畜産物などに対する理解を深めるため、美唄産及び北海道内の食材（地場産品）をより多く使用した学校給食の提供を推進しています。

子ども医療費助成制度

子育て世帯への経済的支援を強化するため、令和5年8月から18歳になる年度末（3月31日）まで。

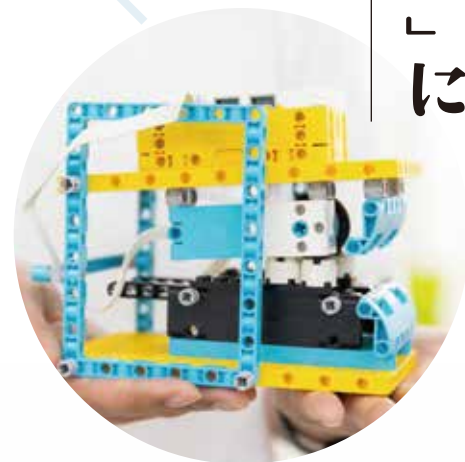
美唄市高校等奨学金

美唄尚栄高校、美唄聖華高校の生徒、または生徒および保護者が美唄市に住んでいる高校在学学生に対し、返還不要の奨学金を給付しています。（月額8,000円、年間上限96,000円）

あなたの「挑戦」が

やがて美唄市の「未来」に

美唄市は、市民一人ひとりの挑戦がまちの未来を創るという理念のもと、子育て世代から若者まで、多様な人々が活躍できるような独自の取り組みを進めています。



子どもとまちの未来会議

美唄市では、未来を担う子どもたちが自分たちのまちについて考え、アイデアを発表する「子どもとまちの未来会議」を開催しています。地域の魅力や課題に目を向け、仲間やスタッフとともに意見を形にし、市議会の議場で市長・副市長・教育長・各部長職に直接提案します。



PITAAAN! (ピターン!)

市内中心部の複合施設「コアビバイ」にある「PITAAAN!」は、10歳から18歳の子どもたちが最新のデジタル機材やソフトに自由に触れ、好奇心のままに学びを深められる場所です。館内には3DプリンターやVRヘッドセット、デザインソフトなどが揃い、デジタルの世界を体感できる環境が充実。いつでもメンター（デジタル技術の達人）が常駐し、子どもたちの「やりたい!」をすぐにサポートしてくれます。「PITAAAN!」は、若者たちが未来の可能性を広げる“きっかけ”を見つけられる場所。遊び場のようにくつろげて、学びの場としても安心できる、地域の子どものワクワクが詰まった居場所です。移住後の「子どもの学びの拠点」として、ぜひ注目してみてください。

美唄市小学校農業科

美唄市は基幹産業である農業の教育的効果に着目し、平成22年度から「小学校農業体験学習」を開始しました。道内唯一の取り組みとして副読本を作成し、授業の時間割に「農業科」を組み込み、読本も「小学校農業科読本」に改訂しました。この授業を通じて、子どもたちは、人間が生命のつながりの中で生かされていることを実感します。その学びは、地球に生きるうえでの謙虚さと、同じ生きものに向けた優しい眼差しを育みます。そして、美唄で育ち暮らしたことへの誇りを胸に抱く子どもたちを育てていくことを目指します。



美唄まちづくり部

子どもたちが地域の大人と共にまちを盛り上げる「美唄まちづくり部」。この部活動では、子どもたちが主役となり、「まちでやってみたいこと」のアイデアを出し、その実現までを美唄シティプロモーション事務局がサポートします。



自然戦隊マガレンジャー

宮島沼とマガンを愛する子どもたちの正義のヒーロー、それが「自然戦隊マガレンジャー」です。市内の小学生から高校生までの隊員たちが、マガンのカウントや水質調査、看板づくりやゴミ拾いなどを自主的にを行い、宮島沼の自然環境を守る活動に取り組んでいます。



美唄どんまいスポーツクラブ

美唄どんまいスポーツクラブは、子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツを楽しめる地域総合型スポーツクラブです。地域の学校体育施設や公園などを活用しながら、イベントやコーディネーショントレーニング、ニュースポーツなど多種多様なプログラムを実施。初心者でも安心して参加できる環境が整っており、仲間づくりや健康づくりの場としても親しまれています。「どんまい」の名前には、「精神的な優しさ、心の優しさ、相手に対するいたわり」という意味が込められています。移住後もすぐに地域に溶け込める、そんな心温まるコミュニティです。



B I B A I

「暮らし」のなかに



美唄市の「魅力」を発見する



美唄ブラックダイヤモンドズ



美唄ブラックダイヤモンドズは、2020年に設立された美唄市の野球独立リーグ球団です。2022年からは日本独立リーグ野球機構（IPBL）に加盟し、北海道フロンティアリーグ（HFL）に所属しています。選手たちは美唄の住民として、市内企業などで働きながら、午後は野球の練習や試合に励む二刀流のスタイルで活動しています。また、地域の清掃活動や冬の除雪ボランティアにも積極的に参加し、地域に根ざした球団を目指しています。地元の人々に応援されながら、選手たちも地域とともに成長していく。そんなブラックダイヤモンドズの活躍は、美唄の新しい魅力のひとつです。



未来クライム

未来クライムは、美唄市からIT人材を輩出していくために、継続的に、IT技術やデジタル分野の学ぶ場を提供していく人材育成支援プロジェクトです。「なりたい自分になる。やりたい仕事をやり続ける。」そんな未来を手に入れるために目指す仲間との出会いと学びの場を提供しています。



ジュニア消防クラブの活動

美唄市では、地域社会を担う子どもたちの防災意識を育むため、「ジュニア消防クラブ」の活動を行っています。美唄市在住の小学5・6年生を対象とし、消防車からの放水体験やはしご車搭乗体験、応急手当訓練などを実施しています。また、消防出初式や消防演習の見学、火災予防運動での防火宣伝など、地域に貢献する活動も行います。これらの活動を通じて、子どもたちは楽しみながら防災や安全について学び、責任感や協調性を身につけていきます。クラブ員には、ベストやキャップが貸与されます。



地域と暮らしに学ぶ「農業科」推進事業

「地域に根ざし、暮らしに学ぶ（生活の場）」に基礎をおく教育プログラムによる農業の実体験活動を行い、「豊かな心」「社会性」「主体性」を育み、子どもたちの将来にわたる生きる力につなげるよう事業展開を図ります。また、食と農業の大切さ・役割・すばらしさを子どもから大人まで地域住民自らが体験的にともに学びあい、地域資源を耕すことにより、生活文化・技術・伝統等をからめた食農における地域ブランドを形成・定着させることを目的に事業を進めています。



アクティブ・チャイルド・プログラム

美唄市は、幼児期の心身の発達を支援するため、日本スポーツ協会のアクティブ・チャイルド・プログラムを市内の保育施設で推進しています。このプログラムは、運動機会の減少という現代の課題に対応し、子どもたちが楽しみながら多様な動きを習得し、豊かな心を育むことを目指しています。市立ビバの子保育園では、広い施設と専門の保育士による指導のもと、鬼ごっこやボール遊びなどを通して、子どもの身体機能や運動習慣だけでなく、協調性や積極性も育てています。

AIデマンドバス「のるーと美唄」

「のるーと美唄」は、AI（人工知能）が利用者の予約状況に合わせて最適なルートを決めて運行する便利なデマンド型乗り合いバスです。決まった時刻表やルートはなく、スマホアプリや電話で乗りたい時間や場所を予約するだけで、効率的に目的地まで移動できます。市街地や国道沿線をカバーしており、通勤や通学、買い物にも活躍。子育て世代や高齢の方も安心して使える、新しい地域の足として多くの市民に親しまれています。移住後も「のるーと美唄」を活用すれば、車がなくても快適に暮らせます。



BIBAI

美唄シティプロモーション推進事業

美唄シティプロモーションは なぜ始まったのか

美唄はいま大きな変化の局面を迎えています。予測では2040年には人口が約1万人に減少(※1)し、高齢化率は約56%にまで上昇。また、それらの複合的な要因によって、地域経済や財政規模、地域コミュニティの縮小など、様々な課題が想定されます。そのような状況でより豊かな美唄を切り拓いていくためには、美唄への誇り(シビックプライド)を高め、関係人口を増やしていくことが大切です。まちの未来をワクワクで溢れさせる取り組みとして、美唄シティプロモーションがスタートしました。

※1 出典 美唄市人口シミュレーション(2019年度改訂版)

美唄シティプロモーションが 目指す未来

シビックプライドを高めていくためには、市民一人ひとりがまちの魅力を再認識し、目指すまちの姿を明確にする必要があります。市民丸となり共通言語を持つことで、この困難な状況に立ち向かっていくことができるのです。また、そこに暮らす人々がその地域に対して愛着や誇りを持っていると、周りから見ても魅力的に映り、関係人口の創出にもつながります。まちで生まれたワクワクが形になり、市内外に波及していくことを目指します。



美唄シティプロモーション事業 特設サイト

美唄シティプロモーション

検索

<https://bibai-citypr.jp/>



YouTube

北海道美唄市
公式チャンネル



市民はみんな 温泉好き

「週末は家族で温泉に行くのが定番」。



朝起きたら
玄関が開かない
「晩で雪が積もりすぎて、玄関ドアが開かなくなるのはよくあること。」「もはや冬の風物詩」。

穏やかで、
のんびりした人が多い。

「焦ってどうするの?」と、
せかせかした日常とは無縁の生活を楽しんでいる。

ハスカップが、
珍しい果物だと気づく。



雪道での華麗な転倒



ツルツルの雪道で転倒するのは「北海道あるある」だが、美唄市民も例外ではない。「みんな一度は経験済み」。転び方のコツを語り合える。

炭鉱跡が
マニアの間で有名



気づいたら野菜をもらっていて、
冷蔵庫が野菜だらけになる
おすそ分けの野菜や果物が、スーパーで買うものより豪華。ご近所さんや知人から、美味しいものがよく届く。



美唄焼き鳥



焼き鳥を全部食べ切らないのが美唄流。最後に頼んだそばに乗せて味わう、これが最高の締め。

アスパラ羊が 最高にうまい



西川農場で育てられている羊肉。地元産のアスパラガスと一緒に与えているため、羊肉特有の臭みが少なく、旨味と甘みが強い。

アルテピアッツァ美唄



時間がゆっくり流れて、帰りたくなる場所がある。

世界を魅了する
彫刻家・安田侃さんの出身地

角屋の 袋入りやきそば

美唄市民のソウルフード!
独特のソース味がたまらない。運動会には欠かせない存在!



冬の寒さにびっくり

冬の寒さにびっくりするけど、
外に出ると人の温かさにもっとびっくりする。

美唄市移住・定住促進助成制度のご紹介

マイホームをご検討の方へ

住宅助成

新築・分譲最大130万円／中古最大50万円を助成

※中古住宅は、購入額の10分の1以内で最大50万円（リフォーム費用も含む）

対象となる方 以下のいずれの項目にも該当する移住者

- ☐ 転入日以前1年間に於いて市内に住所を有していない方
- ☐ 申請日以前3年間に市外から市内に住民票を異動させ転入した方

対象となる方 以下のいずれの項目にも該当する在住者

- ☐ 子育て世帯：住宅への入居を開始した日または売買契約を締結した日のいずれか遅い日において中学校修了前の子がいる世帯
- ☐ 若者夫婦世帯：住宅への入居を開始した日または売買契約を締結した日のいずれか遅い日において夫婦のうちどちらかが40歳未満の世帯

対象

助成金を交付

転入された方

市民（子育て世帯／若者夫婦世帯）



働く若者を応援します！

若者定着移住促進助成

ひと月単身世帯2万円／複数世帯3万円を最大12か月間助成

対象となる方 以下のいずれの項目にも該当する転入者

- ☐ 申請時において40歳未満の方
- ☐ 市内もしくは市外の事業所に勤務（正規雇用）されている方または事業を営んでいる方（公務員は除く）
- ☐ 一時的な居住ではなく、引き続き3年以上定住する意思がある方
- ☐ 転入日の以前1年間に於いて市内に住所を有していない方

対象となる住宅 市内の民間賃貸住宅でアパートや戸建住宅

対象

商品券で助成

転入された方（40歳未満）



札幌まで通勤される方へ

通勤費助成

月額2万円を3年間助成

対象となる方 以下のいずれの項目にも該当する転入者

- ☐ 申請日以前3年間に市外から市内に住民票を異動させ転入した方
- ☐ JR美唄駅からJR札幌駅間の特急定期券を利用し、札幌市内の勤務地まで通勤している方
- ☐ 一時的な居住ではなく、引き続き3年以上定住する意思がある方
- ☐ 転入日の以前1年間に於いて市内に住所を有していない方

対象

商品券で助成

転入された方



美唄市での結婚新生活を応援します！

結婚新生活支援事業

1世帯あたり最大60万円を助成

対象となる方 以下のいずれの項目にも該当する方

- ☐ 前年度の1月1日から申請年度の3月31日までの間に婚姻届を提出し、受理された夫婦
- ☐ 市区町村長が発行する直近の所得証明書をもとに夫婦の所得を合算した金額が500万円未満

対象

助成金を交付

市民



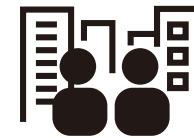
美唄での暮らしをはじめるために

移住をもっと安心に！美唄市のサポート情報



移住・定住に関する支援制度

美唄市では、移住・定住を検討の方が安心して新しい暮らしを始められるよう、さまざまな支援制度を用意しています。 ※詳しくは美唄市役所のホームページで最新情報をご確認ください



移住支援金

東京圏からのUIターン就職・起業で支給される補助金制度です。



子育て世帯向け支援

出産・育児に関する助成金や医療費助成など、子育て世帯にやさしいサポートが充実しています。



市所有分譲地購入助成

市の所有する分譲地を購入し、新築した方に対して、土地購入価格の7割を助成します。



空き家バンク情報



「びばい空き家バンク」では、市内の空き家情報をまとめて提供しています。

空き家バンクの最新物件情報は
こちら



希望に合った物件を探せる！

移住後の住まい探しをサポートする心強い仕組みです！

ちょっとぐらし制度

美唄での暮らしを気軽に体験できる「ちょっと暮らし制度」。市内の住宅や宿泊施設に滞在しながら、四季折々の暮らしを体感できる仕組みです。本格移住の前に、生活の便利さや地域の雰囲気を知りたい方におすすめ。まずは「ちょっと」住んでみて、自分に合った美唄の暮らし方を見つけてみませんか。



移住相談窓口



移住に関する悩みや疑問は、ぜひお気軽にご相談ください。

美唄市役所 広報情報推進課 DX・まちづくり推進係

TEL.0126-62-3137

✉ iju@city.bibai.lg.jp

｜ 開庁時間 ｜ 月～金曜 8:45～17:15（土・日・祝日・年末年始は休み）



美唄での暮らしを 具体的にイメージ

美唄市への移住を検討されている皆様に、移住後の生活をより具体的にイメージしていただくための便利なツール「移住生活費シミュレーション」をご紹介します。このサービスは、首都圏などの都市部から北海道への移住を検討する際に、大きな障壁となりがちな移住前後の生活費の違いをウェブ上で簡単にシミュレーションできる画期的なシステムです。



美唄市の生活費と比べてみよう！

移住先の生活費はどう変わるの？計算してみよう！

移住生活費シミュレーション@北海道

<https://haj.kurashigoto.hokkaido.jp/simulation/bibai>



東京から
美唄に移住した
「工藤さん家族」

工藤さん家族

夫／裕さん
妻／由里子さん
長女／朱華ちゃん

工藤さんの
くらしごと記事は
こちらから



裕さんは横浜出身で、由里さんは美唄出身。裕さんは大手飲食チェーン店に勤務し、店長まで務めていましたが、通勤時間の長さや家族と過ごす時間がないなどを理由に、家族で移住を検討。由里さんがいつか美唄に戻りたいと考えていたこともあり、美唄へ。空いていた亡き祖母の家をリフォームして暮らすことに。

移住してみた感想

美唄市への移住で、家族と過ごす時間が大きく増え、自然に囲まれた静かな環境でのびのび暮らせるようになりました。花火やBBQも家の前で楽しめ、子育て支援も手厚い環境です。奥様のパート就業で、家計の収入は年間約130万円アップ。ご近所との距離感も心地よく、札幌へも特急で35分とアクセス良好。家賃は移住前の1/4になり、生活費も抑えられています。

移住生活費シミュレーション

支出項目	移住前	移住後
食料	¥36,000	¥50,000 ▲
住居	¥120,000	¥30,000 ▼
光熱・水道	¥22,000	¥35,000 ▲
日用品等	¥10,000	¥15,000 ▲
被服及び履物	¥20,000	¥10,000 ▼
保険医療	¥30,000	¥15,000 ▼
交通・通信	¥22,000	¥60,000 ▲
教育（授業料など）	¥0	¥5,000 ▲
教養娯楽（旅行など）	¥40,000	¥30,000 ▼
合計	¥300,000	¥250,000 ▼
差額		－ ¥50,000

※左側は横浜在住時の生活費、右が美唄市に移住してからの生活費です※市内の小中学校に在学する児童生徒の保護者を対象に、学校給食費が無償化されています※幼稚園の利用料は無償です（入園時から小学校入学前まで）※交際費・嗜好品等の出費はふくまれていません

美唄市を見る・体験する・食べる

美唄観光物産協会

歴史とアート、自然と食が魅力の美唄市。野外美術館や炭鉱跡、ソウルフードを巡り心豊かな時間を。



■ 美唄フォレストセンター

美唄駅前にある体験型交流施設。食品サンプルづくりやぬいぐるみ制作、懐かしい駄菓子屋など、子どもから大人まで楽しめるコンテンツがそろっています。観光や日常のひとときに気軽に立ち寄れるスポットです。



■ 美唄市郷土史料館

美唄と呼ばれる前の時代から炭鉱・生活・文化を知ることができ、現在から未来を感じてもらえる施設。



■ 美唄市体育センター

様々なスポーツができる施設、なかでも目を引くのは壁から天井にオーバーハングした「クライミングウォール」。



■ 美唄市体験交流館

手びねりによる陶芸体験や絵付け体験など、初めての方でも気軽に陶芸体験をすることができます。



■ 空知神社

美唄の中心地にある神社。伝統ある雰囲気はどこか心を落ち着かせてくれる場所。



■ とりめし

農家発祥の家庭料理。美唄のおふくろの味で100年以上前から受け継がれる伝統の味。



■ 美唄焼き鳥

かつて炭鉱で栄えた美唄市発祥の「美唄焼き鳥」。鶏のレバー、ハツ、キンカンなどの内臓とモモ肉、皮を1本の串に刺し、玉ねぎを挟んで焼き上げます。塩コショウでシンプルに仕上げた、鶏の全てを味わえるご当地グルメです。



■ ハスカップ狩り

自然に囲まれたのどかな田園地帯に、濃い紫の実が、鈴なりに実るハスカップ畑があります。



■ 東明公園

咲き誇る満開の桜が春の訪れを告げる日本最北のソメイヨシノ群生地。



■ 青の洞窟温泉 ピパの湯ゆ〜りん館

北海道の見晴らしの良い高台に緑豊かな大自然の中で開放感のあるやすらぎとぬくもりのスペース。



■ 炭鉱メモリアル森林公園 （旧三菱美唄炭鉱施設）

炭鉱遺産である堅坑巻揚機というもので、高さ約20メートルの櫓が2基残されています。



■ 安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄

彫刻家・安田侃氏の作品が並ぶ芸術広場。旧栄小学校を活用し、自然と芸術が調和する安らぎの場となっている。